

循環する建築

私が提案するのは、「循環するレンガ」を用いた空間づくりです。伐採や整備で生まれた木材チップや落ち葉を圧縮し、自然由来の結合材で固めてレンガを製作します。そのレンガを床や椅子、ベンチなどに組み上げ、人々が集い、休憩し、自然と触れ合う場を生み出します。時間の経過とともに、レンガは少しずつ風化し、苔が生え、やがて柔らかく崩れていきます。その変化は、単なる劣化ではなく、新たな命を育むためのプロセスです。虫たちや小動物が住みつき、菌類が根を張り、土壌はより豊かに変化していきます。そして最終的に、レンガは完全に土へと還元され、森の木々が育つための肥沃な養分となります。つまり、このレンガは「建材」として人に安らぎを提供するだけでなく、「生態系の循環装置」として次の生命を育む役割を担います。人工物でありながら、朽ちることによって自然を再生させる。使いながら壊れていくことが価値になり、これは木材にしかできないことだと思います。

